

滝沢真一議員の一般質問（9月7日） 主な質問と答弁



加藤市長、だまし討ち政治を「おおむね評価」と繰り返す

滝沢議員は、憲法、戦争法、アベノミクス、社会保障などあらゆる分野で選挙のときは争点を隠し本音を語らず、選挙が終わったとたんのだまし討ちの政治をすすめる安倍政権のやり方を具体的に指摘し、「あまりに不誠実な安倍政権の政治を市長はどう評価するのか」とただしました。加藤市長は「外交、防衛、経済対策を含めておおむね評価している」と、安倍暴走政治を容認する姿勢をあらためて表明しました。また、自民党改憲草案の評価は答えず、「広く議論を期待する」と述べました。

人口増対策 若い世代が安心して学び、働き、子育てできる施策を求める

長野市が「人口減少対策課」を「人口増推進課」に名称を変え、移住・定住に力を入れていることについて、滝沢議員は、子育て支援として子どもの医療費窓口無料化と放課後子どもプランの有料化中止、学生への支援として卒業後に市内で働くなどの条件をつけての市独自の給付型奨学金の創設、ブラック企業対策として市独自の労働実態調査と悪質企業の実名公表の3つの角度で質問。国での検討や全国的な状況を「注視する」などの市の答弁に対し、「本気で人口増をめざすなら、若い世代が安心して子どもを育て、働き、学べる長野市、どこよりも住みよい長野市にすることが必要だ。若い世代を、金銭的にも直接支援する施策に踏み出してもらいたい」と強く求めました。



消防団 装備の支給や車両の更新計画で「改善、見直し」の答弁を得る

自らも消防団員として活動する滝沢議員は、昨年12月議会で求めた「報酬増による処遇改善」のその後の経過をただすとともに、現場の切実な声として、長靴や手袋などの装備の支給の改善、計画的な車両の更新を求めました。また、「火の見やぐら」に登っての「半鐘たたき」について、安全帯もなくヘルメットだけで危険な作業だと指摘。市内の半鐘の状況、登らなくても半鐘がならせるように改修するよう求め、その場合の費用などをたずねました。

消防局長は、アンケートにもとづいて携帯無線機、防塵眼鏡、防塵マスク、さらに長靴、手袋など装備の支給をすすめること、車両は132台あるが更新は毎年3台の計画を実情をみて適正に見直すことを表明しました。半鐘については、現在、市内に444基あるうち、414基で梯子を上って半鐘をたたいていること、改修費用は1基約20万円であり、分団の意向も聞いてやむをえない場合は地上操作式も検討したい、との答弁でした。

さつき保育園、すくすく保育園 現場の声を聞いて

さつき保育園の移転に伴い、東長野病院の院内保育所「すくすく保育園」の廃止問題が浮上しています。滝沢議員は市と病院、保護者、労組の話し合いの現状をただし、利用者の声を聞いて計画を進めるよう求めました。

期日前投票所「イーストプラザ」が一日あたり利用数トップ

滝沢議員は参院選での若い世代の投票率、期日前投票所の利用状況等を質問。投票率は10代44.25%、20代37.42%、このうち18歳は51.32%で10代20代の全体で最高、20代投票率は前回参院選（31.77%）、昨年市議選（19.83%）より高まりました。権堂イーストプラザに3日間（7月3日、8日、9日）設けた期日前投票所は2188人が利用し、一日あたり730人は市内のどの支所よりも高くなりました。選管委員長は「バリアフリー、大学や商業施設が近い、公共交通の利便」などとともに、クラブ活動帰りの高校生が投票に立ち寄る姿、立ち会い人を学生が手伝ったことで若い活気ある投票所の雰囲気など、選挙が身近に受け止められた様子を報告しました。

